

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2008 VOL.7

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

楽 学生生活
Campus life

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

Career
Re
Design

「名市大 医療・保健 学びなおし講座」が始まります！

文部科学省委託事業
「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

医療保健分野において、産婦人科医、小児科医、看護師、保健師、助産師の数が慢性的に不足していますが、育児、家事、介護のために離職した女性医師、看護師の掘り起こし対策は実績をあげていません。女性医師・看護師などの医療従事者の復職支援策として育児休暇制度や院内保育所の整備が進みつつありますが、長期離職者ほど復職率は依然と低い状態です。一度現場を離れると日進月歩の医療内容に後れを取ってしまい、復職の意思はあっても決断がつかない方が多いのが現状です。この障壁の解決には、高度な医療・保健技術を親切に提供する系統的な再教育プログラムが必要と考えています。また近年、高齢者、小・中学校、高校における養護教諭等に対しては、高度の看護、介護、運動療法等専門知識に基づいた適切な対応が強く求められています。

名古屋市立大学では、そのような時代のニーズに応えるため、特に医師、看護師、保健師、助産師の職場復帰促進と医療技能職者に対する医療の進歩に対応し

た能力の向上を図ることを目的とした自己研鑽プログラム「名市大 医療・保健 学びなおし講座」を2008年12月期より本学と東京キャンパス（開催場所は調整中）の2会場で開講いたします。

具体的には、本講座では「**コース制受講**」、および「**スポット科目受講**」の2方式から選択できます。

「コース制」では、1.医療専門コース（医師・看護師・保健師・助産師・薬剤師が対象）、2.医療技能コース（診療放射線技師、臨床検査技師、救急救命士、理学療法士、柔道整復師、臨床工学技士、作業療法士が対象）、3.健康・保健コース（管理栄養士、音楽療法士、小中高養護教諭、介護福祉士、社会福祉士）の3コースを開講し、高度な再教育プログラムを提供



受講生
受付中!!
10月14日(火)～
11月21日(金)

致します。各受講科目には成績評価があり、所定の要件を満たした場合には名古屋市立大学より「受講修了書」を発行します。各コースとも4科目8単位以上の受講修了者で、かつ希望者は「履修証明試験」を受験でき、合格者には学校教育法に基づいた「履修証明書」を発行します。「スポット科目」での受講は、開講科目のうち、希望する1科目（または数科目）のみを受講したい方、また一般の受講者などが対象です。「履修証明書」は不要だが、ある特定の科目のみ受講したい方も受講できるシステムを提供しています。

なお本講座は文部科学省委託事業として名古屋市立大学が社会貢献の一環として行うものであり、**受講料は無料**です。また、名古屋キャンパスでは、育児中の方も受講しやすいように、講座受講中は学内「さくら保育所」の「一時託児サービス」を**無料**でご利用頂けます。

【名市大 医療・保健 学びなおし講座】

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/>

名市大 学びなおし

検索

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

地域医療を担う拠点・中核病院

名古屋第二赤十字病院—Q:病院の特色は?

名古屋第二赤十字病院は歴史的に一貫した方針で、救急医療、高度医療、研修医教育、医療連携、さらには災害救護、国際救援等に積極的に取り組んできました。特に救急医療を病院の重要方針として取り組み、2001年に竣工した救命救急センターは、最新の医療設備・機器を配備し救命救急センターとしての機能だけでなく、大規模災害時の最後の砦となるべく災害拠点病院としての機能も充実させました。昨年、長期整備事業が完了して全病院的なハードが整い、現在はソフト面の充実を図っています。厳しい医療情勢の中、患者さんだけでなく医師、看護師からも選ばれる病院を目指しています。



今後も地域の大学、病院、診療所との密接な連携、役割分担、棲み分けと共生を図りつつ、地域医療支援病院、がん診療拠点病院等地域の基幹病院として当院の担うべき役割を果たしていきたいと思っています。

名古屋第二赤十字病院院長 石川 清

名古屋記念病院—Q:病院の特色は?



名古屋記念病院は1985年「がんと免疫」をテーマに掲げ開院されました(写真)。現在は2次救急医療に力を入れ、国が重点的に取り組む、がん、糖尿病、脳卒中、心筋梗塞を中心に各診療科で質の高い医療を目指しています。総合内科、救急部が中心となって救急医療を担当し、研修指定病院として研修医の育成にもあたっています。さらに500名以上の登録医との連携のもと地域医療に積極的に取り組み、2001年には名古屋市内で初めて開放型病床を、2006年には手術室の共同利用を開始し、2007年には診療ネットワークのもと大腿骨骨折の地域連携パスを開始致しました。

2007年には「研修センター」を設置し、市民向け医療情報の提供、連携医師、連携医療機関との積極的な情報交換を行なっています。今後地域医療支援病院、さらには地域がん診療拠点病院を目指し整備を進めますので、瑞医の読者の皆様のご支援をお願い致します。

名古屋記念病院院長 藤田 民夫

教育

医学研究科修士課程が動き出しました!

医学研究科では今年度より修士課程を新設し、18名の第一期生を迎えた。様々な大学・学部出身者が名古屋市立大学に集まり、大学院生活をスタートした。日夜、研究に取り組んでいる2名の大学院生に話を聞いた。

台湾出身の黄詩恵さんは、「日本の研究室で勉強する機会が得られて幸せです。ゆとりのある教育カリキュラムのおかげで研究室での実験に集中できます。」と語っている。また、生体機能と創薬シンポジウム(9月5・6日:東京)にて入学から約半年の研究成果を発表した清水耕平君は、「今回の発表は自分にとって大きな刺激になり、この経験を今後の研究活動に活かして頑張りたいと思いました!」と述べた。他の研究室に所属する同級生の中にも、学会発表を目指して研究に励んでいる人がたくさんいるとのことであり、今後の修士課程大学院生の活躍が楽しみである。

清水君によると、同級生の進路希望は企業への就職と博士課程進学が約半々とのことであるが、就職希望者に対して医学研究科では薬学研究科と連携して10月頃から本格化する就職活動の支援を行っている。一方、博士課程へ進学する者には、基礎医学の研究者として独立するために必要な様々なトレーニングを行い、修士課程で開始した研究を完成させて質の高い論文を発表できるように指導している。本学の基礎医学研究の将来は修士課程の大学院生の活躍にかかっていると言っても過言ではない。



右上:清水君、左上:黄さん 下:インタビュー-澤本教授と。

研究者紹介



Masaya Kojima

小嶋 雅代(こじま まさよ) 公衆衛生学 講師

専門:疫学(テーマ:慢性疾患患者の予後、QOLと心理社会的要因との関連)

ママとして・
研究者として活躍!

「病は気から」と言いますが、痛みや生活の制限を伴う慢性疾患の患者さんでは心理的な要因が病気の進展に大きく関与します。現実には様々な要因が絡み合い、個々の影響の大きさを実感することは困難ですが私は疫学的手法を用いて他要因を調整しながら、心理的要因が健康に与える影響を定量化することをテーマとして研究しています。「気持ち」をおろそかにしていると、心身の危険信号に気付かず不調に陥りやすいと考えられます。また、周囲からのサポートも心身の健康の維持には重要です。一連の研究が、患者さんと治療者の双方にとって「互いの心を思いやる大切さ」を再認識するきっかけとなり、より良い治療に結びついてくれたらと願っています。

近年の論文:Psychosom Med. 70:177-85. (2008), J Psychosom Res. 63:349-56. (2007),
Cancer Causes Control. 18:259-67 (2007)



Yasue Kubota

窪田 泰江(くぼた やすえ) 腎・泌尿器科学 病院講師

専門:腎・泌尿器科学(テーマ:過活動膀胱の病態解明-間質細胞の役割に着目して-)

ママとして・
研究者として活躍!

近年の高齢化社会とともに、尿意切迫感を主症状とし、頻尿や尿失禁を伴う過活動膀胱(OAB)患者が増加しています。QOLを著しく損なうOABですが、その病態はまだ十分に解明されていません。私たちは、膀胱に存在する間質細胞が、消化管におけるペースメーカー細胞と同様にKITを発現していることに着目し、OABの病態解明と臨床応用に向け基礎的研究を進めています。育児をしながら臨床・研究・教育が続けられるのも、教室の先生方の暖かいご配慮のお陰と感謝しております。時には子連れで出勤せざるを得ない日もありましたが、社会に貢献できることに喜びを感じています。女性医師が出産後も仕事を続けやすい状況が今後さらに整備されることを願っています。

近年の論文:Neurourol Urodyn. 27, 330-340, (2008)、Neurourol Urodyn. 25 (3) : 205-10, (2006)、
Auton Neurosci.115 (1-2) :64-73, (2004)、J Urol. 169:390-395, (2003)、J Urol. 170:628-633,
(2003)、第2回内藤記念女性研究者助成金(2007)



Norihito Kishimoto

岸本 憲人(きしもとのりひと) 再生医学分野 研究員

専門:分子生物学(テーマ:ゼブラフィッシュの遺伝学的手法を用いたニューロン新生メカニズムの解明)

近年、成人の脳にも幹細胞が存在し、継続的に新しいニューロンが産生されていることが明らかになりました。私は、変異体を得やすく、遺伝学的解析が可能な脊椎動物であるゼブラフィッシュを使って、成体脳におけるニューロン新生の分子メカニズムを調べています。ゼブラフィッシュの脳は、長さ5mm程ですが、ヒトと同じ脳の基本パーツを有し、約50万個の神経細胞でできています。魚からヒトの脳を比較することにより、脊椎動物の進化過程で保存された重要な機能や多様性を明らかにしていきたいと考えています。本研究は、慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「In vivo ヒト代謝システム生物学拠点」の一環として行われています。

近年の論文:Developmental Cell. 14:954-961 (2008), Development. 130:2495-2503 (2003).



Noriyuki Matsukawa

松川 則之(まつかわのりゆき) 神経内科学(神経内科) 講師

専門:神経内科・認知症(テーマ:海馬由来コリン作動性神経刺激ペプチド(HCNP)と認知症病態・神経疾患と認知機能)

アルツハイマー病病態はアミロイド仮説を中心に研究が進められ、現在根本治療を旨として抗体療法・ γ セクレターゼ阻害剤による世界共同開発治験が開始され、その真価が問われる段階にきた。しかし、中間データでは認知機能の改善はなく、その効果を疑問視する意見もある。教室にて単離されたHCNPおよびその前駆体蛋白が記憶関連系に重要な働きをする可能性、アルツハイマー病脳では発現が低下していること等を報告してきた。最近遺伝子改変動物(Tg)の解析を行い、本ペプチドが生体内においてChAT活性を促進することを確認した。また、アルツハイマー病病態をアミロイド仮説とは異なる視点から再現する為にノックアウトマウスを構築中である。さらに、前駆体蛋白が神経分化に関与する可能性を確認し、再生医療を新しいテーマとして研究を開始した。将来、我々の研究結果が新たな治療法開発につながることを夢みながら教室員と努力しています。

近年の論文:1: Prog Neurobiol. 85 (3) :318-34 (2008)、2: J Neurosci. 14:27 (7) :1642-50 (2007)
3: J Neurosci. 29:26 (48) :12497-511 (2006)

新任教授のご紹介

機能解剖学—池田 一雄教授

Q:今後の抱負をお願いします。

平成20年9月1日付けで大阪市立大学より赴任し、機能解剖学分野を担当させていただくことになりました。今大学は独立行政法人化の後、組織改革など大きな変動を余儀なくされ、各大学の個性化が求められています。解剖学教育・研究においても同様に改革、originalityが求められています。解剖学は構造の持つ様々な意義を個体、組織、細胞そして分子レベルで解明し、形態から機能を解析する学問ですが、この解剖学教育においてもコアカリキュラムの導入により、問題解決型の能動的学習の推進が求められており、この点からも、特に実習を重視したかたちでの授業を取り入れていきたいと考えています。研究につきましては、臓器線維症、特に肝線維化のメカニズムを明らかにし、線維化を抑制する治療に結びつく肝星細胞の基礎研究にアプローチしていきたいと考えています。教育・研究の両面において、若い人達の芽を伸ばせるよう、微力ではありますが精一杯努力したいと思っています。何卒、ご支援ならびにご指導の程よろしくお願い申し上げます。



池田 一雄 教授

OB 訪問



岡田 秀親氏

(株) 蛋白科学研究所 所長

Q:ご定年後も研究を展開中とお聞きしましたが?

名市大発! 敗血症治療薬の研究を行っています。タンパク質の全てのアミノ酸配列が構造情報として機能しています。各々のタンパク質が其々に特有な一定の構造と機能を持つ基本原理として働いているためです。私どもが提唱したこのアンチセンスホモロジーボックス (AHB) 理論 (Nature Med. 1:894, 1995) を基盤に、目標とするタンパク質に反応してその機能を制御する相補性ペプチド創生プログラムソフトを作りました。炎症起動因子である補体C5aアナフィラトキシンを不活化する相補性ペプチドを作り、それが敗血症病態モデルのサルで救命効果を発揮することがわかりました。厚生労働科学研究費の助成をうけて患者での救命効果実証を目指しています。

昭和38年名市大卒業。昭和43年東京大学大学院修了。昭和44年国立がんセンター研究所勤務、昭和58年福岡大学医学部微生物学教室教授、昭和62年名市大分子医学研究所教授、平成15年同 名誉教授、現在、(株) 蛋白科学研究所所長、福祉村病院先端医療担当副院長。



勝見 康平氏

(名古屋市立西部医療センター城北病院 院長)

Q:医療ビジョンをお教えてください。

名古屋市では今年度から病院局が発足し、新局長として上田龍三教授をお迎えしました。5つの市立病院は東部医療センター(東市民、守山市民病院)、西部医療センター(城北、城西病院)、緑市民病院にグループ化され、機能分担と連携が進められています。現在、本市では北区志賀公園の隣地において「クオリティライフ21城北」と銘打ったプロジェクトを推進中です。これは西部医療センター中央病院(仮称)、重症心身障害児者施設、健康増進支援施設、陽子線がん治療施設などを整備し、保健医療福祉の総合拠点をめざすものです。当院は3年後に中央病院へ移転しますが、新病院では周産期医療センター、小児医療センター、消化器腫瘍センターなどを設置して成育医療やがん医療を行うほか、小児科、産婦人科、眼科の二次救急体制の充実を図り、市民からも職員からも選ばれる病院をめざします。

昭和47年名市大卒業、第一内科入局。昭和61年名古屋市立緑市民病院第一内科部長、平成8年同病院副院長、平成14年名古屋市立東市民病院副院長、平成16年名古屋市健康福祉局医監・病院事業本部長、平成20年より現職。

BLS (一次救命処置) プロジェクトチーム始動!

街中を歩くと、あちこちにAEDの標識が見受けられます。このAEDの利用を含むBLS (一次救命処置) は一般市民でも行うことができますが、処置技術普及の最大の障害が指導者不足です。医学教育センター・救急部・循環器内科は協同で、BLSプロジェクトチームを発足させました。

昨年秋に指導者養成コースを開講したところ、基礎系教員と学生あわせて10名の方の参加を頂き、今年度は6月までに医学部・薬学部薬学科の1年生、約150名に講習を行うことができました。さらに今夏には新たに多数の学生が指導者コースを修了し、講習の対象を大きく拡げることが可能となっています。

BLS受講・指導に関心のある方は<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/omerd/bls.htm>に詳細がありますので、是非ご覧ください。(医学・医療教育学 助教 飯塚 成志)



M4実習でAEDの使い方を指導する養成コースを修了した教員

学生生活

医学部では、毎年、M6の学外実習期間に、オーストラリア、ニューサウスウェールズ大学 (UNSW)への交換留学生として2名の学生を派遣しています。

毎年人気のUNSWへの留学に今年度参加した、M6佐藤 諒さんに聞きました

Q:いつ頃から、留学を考えていましたか?

入学した頃から、「在学中に留学したいな」と漠然と考えていました。UNSWとの交換留学についてもその頃から知っていました。昨年の先輩方の体験談を聞き、より一層その思いが強まり、今回の応募にいたりしました。

Q:実際に留学して、医療、医学教育の日本との違いを感じましたか?

私の配属先は内分泌内科で、主に糖尿病センターで実習させて頂きました。そこでCDE(Certified Diabetes Educator:糖尿病療養指導士)、Podiatrist(足病治療医)など、日本ではまだそれほど馴染みのない分野の方々と交流することができ、医学生としての見聞が広まりました。

今回の留学の目的の一つに、「GP(General Practitioner:一般開業医)と大病院との連携を見て学ぶ」ということがありました。GPから紹介された糖尿病患者は3ヶ月ごとに受診し、診察後は再びGPのもとでフォローしていくという体制でした。GPと大病院の緊密な連携は、慢性疾患の管理という観点からは優れていると感じました。また、現地の医学生とも知り合い、彼らのモチベーションの高さに大いに刺激を受けました。

Q:これから留学を考える、後輩へのアドバイスをお願いします。

当然、基本的な日常英会話の能力は必要です。特に、医療現場で使われる英語は大変スピーディーですから、医学英語とそのスピードには、日頃から慣れておく必要があります。また、現地の臨床実習は、ある程度学生の自主性・積極性に任されているので、興味があることなら、たとえその時の実習分野以外の内容であっても、自由に参加することができました。私も、時折6年生対象のshort lectureやtutorialに参加させて頂き、大変勉強になりました。

最後に、今回の留学にあたり、先生方、後援会の皆様、事務の方々等、お世話になった皆様に心より御礼申し上げます。今後はこの貴重な経験を活かしていきたいと思います。



糖尿病センターのスタッフと

(インタビュー:カリキュラム企画・運営委員長 浅井 清文)

クラブ活動紹介



ほぼ全員が大学からゴルフを始めているそうです。初心者の方でもOKですよ!

第2回 ゴルフ部

こんにちは、ゴルフ部です。ゴルフ部は創部35年以上の部活で、現在はゴルフブームの波もあり、総勢35名で活動しています。試合は、西医体を始めとして、新人戦、国公立戦メディカルや毎月行われる交流戦などたくさんの試合に積極的に参加し、他大学との交流も盛んに行っています。とてもお得な合宿も夏2回、春1回行っています。ゴルフは一年を通して、なおかつ一生を通して続けられるスポーツであり、幅広い年代の人とも知り合え、一緒にプレーできる数少ないスポーツです。興味のある学生や先生方は、火曜日と木曜日に天白ゴルフセンターで練習していますので、ぜひ一度見に来てください。(ゴルフ部 主将 M3 加藤 寛之)

学生のページ

川澄祭実行委員会～僕らだからできる学祭を!～

医学部4年生と看護学部3年生が中心となって開催する、医看合同学園祭「川澄祭」。今年度の開催日は11月7～9日となっており、この3日間のために、1月から動き始め、着々と準備を進めています。私は立候補により実行委員長を務めさせて頂いておりますが、就任以来、ひたすら自分の力の至らなさを反省する毎日です。しかしそれ以上に、私を助けてくれる実行委員の仲間たちへの感謝、そして「学生時代にしか、今しかできないことに、全力で打ち込む」という信念のもと、充実した時間を皆と共有しております。これまでに同窓会、先生方をはじめ、多くの方々にご支援いただいております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。そしてどうか最後まで温かく見守ってください。

学生にあって、社会人にならないものといえば何でしょうか。私は、「時間」「若さ」「エネルギー」だと考えます。これらが凝縮したものこそ、この種のイベントだと思うのです。5年生になるとBSLが始まり、勉強も忙しくなります。班行動になり、皆で共通の時間を持てる機会も減ります。だからこそ、「今、まさにその一瞬」に、縁あって集った名市大の学生皆で照準を合わせ、エネルギーを刹那に放出したい。それが、ひいては、将来のチーム医療の精神につながるような気もするのです。

今年は「愛」をテーマに、「I for you, for me, for the rainbow」というキャッチフレーズを掲げました。お客様には、毎年恒例企画の「模擬病院」を通して「自分の健康への愛 I for me」を、骨髄バンクチャリティイベントを通して「他人への愛 I for you」を感じてほしい、というメッセージです。特に後者は、愛知県発祥の骨髄バンクを若い世代にも浸透させるため、有名アーティストなどにもご出演いただき、第49回川澄祭のオリジナリティを体現した内容となっております。目指すのは、人間の温かな愛を感じられる、僕らだからこそできる学祭。

詳しくはHP (<http://www.kawasumisai.com/>)をご覧ください。第49回川澄祭で、皆様にとっての「愛」が見つかりますように。(実行委員長 M4 小笠原 治)

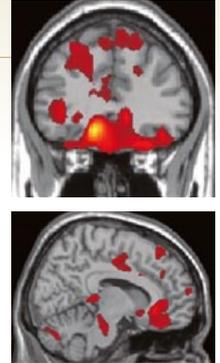


夏休みも準備に追われる実行委員。職人さながらです。

こころの医療センター—認知行動療法外来—

名市大病院こころの医療センターでは、2001年からパニック障害と強迫性障害の認知行動療法外来を、2003年から社会不安障害(対人恐怖)の認知行動療法外来を行っております。これらの不安障害にはセロトニン再取り込み阻害剤などの新しい薬剤も有効ですが、認知行動療法と呼ばれる精神療法も同等な効果があることが分かってきました。一言で言うと、認知行動療法では、出来事に対して私たちが持つ考えやイメージ、あるいは行動パターンを変えることによって、不安や抑うつといった不快な感情を変える方法を学びます。私たちは、薬物は服用せずに、あるいは薬物と併用しながら、これらの病気に対して10~16回程度のセッションで対処方法を身につけるプログラムを提供しています。認知行動療法は直接に脳の活動に作用することも最近、判明してきました。図は恐怖症の認知行動療法によって改善する脳の部位を示しています。

(担当 精神・認知・行動医学 教授 古川 壽亮)



NICU—ゆりかごの戦士達 (未熟児・新生児医療最前線)

幼気(いたいけ)な天使が舞い降りる。その小さな命を守るために、オフENSEの産科医が去った後にも、彼らのディフェンスはさらに続く。漲(みなぎる)情熱とは裏腹に、彼らは決して荒ぶことはない。静寂(しじま)に響くメトロノームに力強い奏(かなで)が続く。NICUの聖地、名市大小児科。彼らもまた伝統を継ぎ、未来を支える者達だ。分娩成育先端医療センター副センター長の鈴木悟氏は語る。(取材:尾崎康彦)

(後列) 左から
伊藤 医師、水野 助教、高田
NICU認定看護師、大内看護師、
上田 医師、吉見 看護師
(前列) 左から
鈴木副センター長、村田 師長



Q: NICU (未熟児新生児医療) の現状は?

「日本の新生児医療は世界のトップクラス」と言われています。出生体重1000g未満の超早産児の1960年代の死亡率90%であったものが、90年代に入ると生存率が80%と逆転しています。しかし最近、そのような超低出生体重児の後障害が必ずしも満足できる程低いレベルではないと認識され、現在の新生児医療は単に生存率の改善にとどまらず、「後障害のない生存」を目標として多くの多施設共同臨床研究が行われ、また多くの新たな治療法が検討、導入されています。

Q: 名市大のNICUの特徴は?

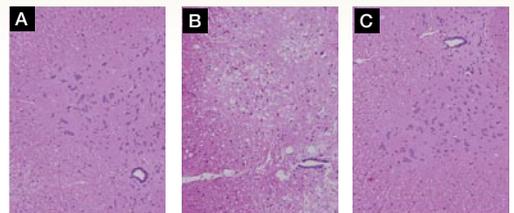
ハイリスク妊娠を胎児期(場合により妊娠前)から、妊娠・分娩・新生児管理に至るまで総合的に管理・治療する分娩成育先端医療センターとして機能しています。最適な医療を提供すべく産科、小児科、小児外科など関連8診療科が連携して24時間体制でチーム医療を行っています。高度先駆的医療の研究・提供としては新生児肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法や早産脳性マヒの主原因の一つである脳室周囲白質軟化症予防の多施設共同臨床研究の中心拠点になっています。

Q: 今後の未熟児・新生児医療のビジョンは?

最近マスコミなどで新生児科医不足とNICU病床数不足が叫ばれています。このため名古屋市内でも妊娠してすぐ予約をしないとお産が出来ない状況になりつつあります。当院NICUでは数年後の西部医療センター開院に向け、大学病院での高度専門医療と西部医療センターでの臨床研修部門を効率よく融合させ、患者・家族の皆さんが「安心して受診できる安全な医療」を提供していく予定です。

心臓血管外科—基礎的研究・データの蓄積にも力を入れています—

心臓血管外科治療においては特に精緻な手術が要求されますが、基礎的な研究・データの蓄積も重要な意味を持ち、常に積極的に取り組んでおります。これまでに実績を作った研究として、脊髄動脈虚血による脊髄神経損傷に対するヒト心房利尿ホルモンの脊髄保護作用があります。大動脈疾患の術後の脊髄神経障害による半身麻痺は重篤な合併症の一つであり、発症すれば決め手となる治療はありませんでしたが、この研究はこのような合併症対策として高い治療効果を持つものとして期待されています。また、現在ではラットに人工心肺を使用した際に発生する脳神経障害の軽減のための基礎データの収集を行っております。これらは全て心臓血管手術の最も忌むべき合併症のメカニズムと治療、そして何よりも予防策の開発に向けて重要な意味を持つものであります。



虚血障害のラット神経組織 **B**では通常の状態 **A**に比べて、白く脱落した組織の変性を認めるが、ヒト心房利尿ホルモンを投与した状態 **C**では、その改善効果が認められる。

(担当 心臓血管外科 病院講師 佐々木 繁)

地域貢献・地域活動

近隣大学の学生と共に環境問題に取り組む、「なごや Universal Eco Unit」。

この活動の中心となっている、M4福島一彰君にお聞きしました。



100万人のキャンドルナイト

「電気を消してスローな夜を」をスローガンに、夏至と冬至の2回、全国で行われている100万人のキャンドルナイト。私たち「なごや Universal Eco Unit (UEU)」は、今年の夏至の日にこのキャンドルナイトを栄のもちのき広場で行いました。メンバーによる合唱、環境問題をテーマにしたトークショー、活動の中で感じた思いを表現した詩のオブジェなどによって、環境についてのメッセージを発信しました。

活動に取り組むことになった経緯

UEUとして集まったきっかけは、各大学の学園祭でそれぞれがエコな企画を行ってほしいという名古屋市環境局の方の呼びかけでした。しかし最初の集まりの時に、「せっかく集まったメンバーなのだから、みんなで何か一つ大きなことはできないか?」というメンバーの意見が出ました。その一言が、このキャンドルナイトを行うきっかけになりました。ばらばらではなく大学を超えて一つのものを作り上げていくことで、それぞれの思いを集めて大きな一つのメッセージとして表現していくというUEUの形が出来上がったのです。

今後の活動方針

今後も各大学での活動だけでなく、大学を超えたつながりを生かした活動を行い、同世代の大学生、さらには一般の人々に環境問題への関心を高めていただけたらと考えています



なごやUEUとは? 昨年、学園祭で環境問題への取り組みを広めようという趣旨のもと名古屋市環境局の呼びかけで本学を始めとする8大学の学園祭実行委員の学生が集まり結成。現在は、11大学に広がっており、学生や一般の方に環境に配慮することの重要性を知ってもらう取り組みを実施。市大では、学園祭で、「環境シンポジウム」「廃油を使ったアロマキャンドル作り」など独自企画を各キャンパスで実施。その他、合同企画として、クリアファイル、エコバックなどのエコグッズデザイン製作、アースデイへの出展など多彩に活動中!

医薬看合同カリキュラム—ポスター発表会を行いました



本年度新たに開始した医療系連携早期体験学習カリキュラムでは、最終日の7月11日(金)にポスターによる研究成果発表会を行いました。医学部・薬学部1年生が学部混合の24グループに分かれ、「自学名市大を知る」というメインテーマのもと、1.名市大の学生の社会活動、ボランティア活動、2.名市大病院の機能、活動、3.名市大の施設、センター等について、独自のテーマで調査・研究を行ってきました。

どのポスターも理解しやすいようにとの創意工夫がされ、充実した発表会となりました。学生相互の評価に、両学部の教員の評価を加え、現在、ベストポスター賞の選考を行っています。平成21年度からは看護学部の学生も加わり完全な医薬看連携カリキュラムとなります。この学部を超えた活動が学年を超えて引き継がれ、本学の特徴の一つとして発展することを期したいと思います。



発表会の様子。調査内容を工夫を凝らし、わかりやすくまとめ、他グループの学生、教員に説明。



味のある店構え。お酒も揃っています。



カニング巻



滝子交差点南

桜山の懐かしのお店紹介—第2回「丸八寿司」さん

名市大4年生にして初めて丸八寿司ののれんをくぐってみた。

歴史を感じさせるたたずまいに暖かく迎え入れられた。「隠れ家的なお店」というのは本来こういう店を言うのかもしれない。

壁のメニューを見て、巻物の種類の多さに驚いた。そのネーミングも一風変わっている。次々と並べられる握りに舌鼓を打ちながらも、どうにもそちらが気になった。試しに「カニング巻き」というのを注文してみると、ガリが巻物になって供された。「隣の客をチラリと覗くとガリを食べていた。」これがカニング巻である。カニングをすると残念な結果が待っていると思い知らされた。

その日も部活帰りと思いき学生が奥の座敷で盛り上がっていた。賑わいの灯は年月を経てなお消えることはないようだ。

(紹介:M4学生)

臨床研修制度が充実します!—『水谷孝文賞』の創設について

この度、名古屋市立大学医学部同窓会初代会長、水谷孝文先生からのご寄付を基金として水谷孝文賞が創設されました。水谷孝文賞は、名古屋市立大学の発展に寄与する若手医師の活躍の奨励をその趣旨とするものです。本賞は、この趣旨に基づいて、卒後の臨床研修に高い意欲と向上心をもって臨み、当大学の発展に資することが期待される名古屋市立大学病院の臨床研修医に授与されます。

本賞の概要は以下の通りです。

- ・本賞は、毎年度、名古屋市立大学病院の2年次臨床研修医4名に授与されます。
- ・本賞の選考には、名古屋市立大学病院病院長、大学院医学研究科基礎教授会議長、名古屋市立大学病院副病院長、臨床研修センター長、コア診療研修ユニット主任から構成される水谷孝文賞選考委員会があたります。
- ・副賞として、1名50万円の研修助成費が授与されます。
- ・選考は原則として7月に行い、水谷孝文氏より授与されます。
- ・なお、副賞の研修助成費は、海外研修費用、学会等の学術活動費用、臨床研修のための研修会開催費用および備品整備費用などに使用することができます。

本賞は平成21年度から開始されますが、平成20年度には特別に名古屋市立大学病院2年次研修医2名に授与されます。

研修医のための宿舎の提供について

名古屋市立大学病院では、平成21年度より、従来からの念願であった臨床研修医のための宿舎の提供が実現することになりました。宿舎は名古屋市立大学病院臨床研修プログラムの1年次および2年次研修医が、名古屋市立大学病院を所属先として研修を行う期間について提供されます。申込方法や自己負担金などの条件については名古屋市立大学病院臨床研修センターのHPに順次掲載されますのでご覧ください。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/cgmerd.dir/>

基礎教育棟玄関ホールが生まれ変わりました

昭和52年に建設され、老朽化が目立っていた基礎教育棟の玄関ホールが、名古屋市内にお住まいの川久保日代子様のご寄附により、装いも新たに改修されました。

この度の改修では、玄関前に身体障害者用スロープを設置するとともに、玄関ホールの照明には人感知点灯方式を採用しました。また、照明器具には省エネタイプを設置するなど、隅々に渡り、人にそして環境に配慮した施設に生まれ変わりました。

改修工事は、夏休みを利用して行われたこともあり、新学期に初めて知った学生にも大変好評です。

この誌面をお借りして、改めて川久保日代様に感謝を申し上げます。

なお、秋からは1階に身体障害者用トイレを設置するほか、談話室には学生の声を取り入れたテーブルや椅子を新調し、憩いの場を提供します。また、2階及び3階のトイレも改修を予定しています。さらに、新しく使いやすくなる基礎教育棟にご期待下さい。



自動ドアに。夜間は人を感知して点灯します。 スロープを設置しました。

ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に..ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつづやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

- 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 新米医師のつづやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
 などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は2月号です)

- 1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

〈受付〉〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
 名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞医(ずい)

発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
 TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成21年2月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

☒
**我こそは
 通信員!**

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 佐々木まで